



森林を守り、育て、活かし、豊かな森を未来に引き継ごう

謹 賀 新 年



■表紙写真 題名：森の遊園地 撮影地：富士宮市 撮影者：佐藤美栄子氏（茅ヶ崎市）

本誌のバックナンバーは、静岡県山林協会ホームページでご覧いただけます。
ホームページには、林業への就業を考えている方の参考になる記事も掲載しています。

URL : <https://www.moritohto.jp>



INDEX



年頭挨拶

静岡県山林協会会長 鈴木康友
静岡県知事 川勝平太



県庁だより（経済産業部 森林・林業局 森林計画課）
「森の力再生事業」と「森林づくり県民税」の継続について



支部だより①（南伊豆町 地域整備課）
林道青野八木山線について



支部だより②（磐田市 農林水産課）
万瀬財産区・静岡大学 区有林活用に係る協定の締結について



支部だより③（中部農林事務所 森林整備課）
「オクシズ」の森林認証について



農林大学校だより（静岡県立農林大学校 林業分校）
次世代に理念を引継いで閉校します



本部情報

望月英光氏が農林水産大臣賞（令和2年度全国林業経営推奨行事）を受賞
日本林道協会創立70周年記念林道功績者表彰
治山・林道コンクールで林野庁長官賞を受賞
林業就業相談会について（開催のお知らせ）

謹賀新年



公益社団法人 静岡県山林協会
会長 鈴木 康友

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

会員はじめ関係者のみなさまにおかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、当協会の各種事業の推進並びに運営につきまして、多大なるご協力とご支援をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

さて、去年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまで我々が経験したことのない年でした。3密対策の実施など、これまでの生活様式からの変更が必要となり、人と人との繋がりの薄れ、終わりの見えない感染対策が現在も続いています。

森林・木材関係においても、去年は、木材需要の低迷等、非常に苦しい時期を経験しました。現在、需要は落ちついてきましたが、今後の感染拡大の影響が不安視されます。

ただ、このような時代においても森林の持続的な経営・管理や地域材の利用拡大は非常に重要です。

特に近年は、SDGsに対する意識が高まり、持続可能な社会の実現に取り組む民間企業等が増え、公共建築物だけでなく、民間物件への木材利用の機運は高まっています。

当協会につきましても、県民の利益増進のため「森林の保全」、「山村及び林業の振興」、「森林整備の担い手の育成」に関する事業の充実に取り組んでいきますので、本年も会員みなさま方の変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

結びにあたり、会員みなさまの益々のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

令和3年 元旦



静岡県知事
川勝 平太

年頭の御挨拶

明けましておめでとうございます。

貴協会の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から県の森林・林業行政に多大なる御支援と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

現在、世界に蔓延する新型コロナウイルス感染症により、世の中は大きな変革期を迎えています。県は、感染対策と事業者・生活者の皆様の支援に万全を期すとともに、これを機に、人々の価値観の変化に伴う新しいライフスタイルの創出や地域主導型経済政策「フジノミクス」を進め、東京一極集中の社会経済システムに代わる持続可能な地域社会「ふるさと“ふじのくに”」の実現を目指してまいります。

また、持続可能な開発目標（SDGs）への関心が世界で急速に高まる中、目標の達成に重要な役割を担うものとして、森林の「多面的機能」に注目が集まっています。住宅や非住宅建築物等における県産材需要拡大の推進や、ICT等の先端技術を活用した「林業イノベーション」による低コスト主伐・再造林の促進等により、木材生産量50万m³の早期実現と定着を図り、林業の成長産業化を加速してまいります。

また、森林づくり県民税を財源とした「森の力再生事業」は、10年計画の5年目となる本年度末、当初計画どおり約5,600haの荒廃森林の整備が完了する見込みです。県民及び企業の皆様の御協力に心から感謝申し上げます。一方で、近年集中豪雨等が頻発し、各地で山地災害リスクが高まっていることから、一層の森林整備を進め、引き続き荒廃森林の再生に全力で取り組んでまいります。

今後も、SDGsのフロントランナーとして、森林を守り、育て、活かす「森林との共生」の取組を着実に推進してまいりますので、引き続き皆様の御支援と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、皆様の御健勝と御多幸を心から祈念申し上げまして、年頭の御挨拶といたします。

令和3年 元旦

県庁だより

「森の力再生事業」と「森林づくり県民税」の継続について

経済産業部 森林・林業局 森林計画課

「森の力再生事業」と「森林づくり県民税」について行った意見聴取の結果と令和3年度以降の事業と税の方針について報告いただきました。

〇県民等意見の集約結果

本年度、「森の力再生事業」は、第2期計画の5年目となり、財源となる「森林づくり県民税」の今後の対応を検討する時期を迎えたことから、タウンミーティング、アンケート調査、県内市町長や経済団体の訪問等により幅広く県民の皆様の御意見を伺ってまいりました。

この結果、概ね9割の皆様から現事業の成果について評価できるという御意見と今後の事業継続と税負担についての御理解をいただきました。



▲タウンミーティング（浜松）

〇事業継続を決定

事業により荒廃森林の整備が着実に進む一方で、近年、各地で集中豪雨の頻発により山地災害のリスクが高まっていることから、第2期計画

の残り約5,600ヘクタールの荒廃森林についても、速やかに整備を完了させることが求められています。

こうしたことを総合的に勘案して、令和3年度以降も「森の力再生事業」を継続することとしました。

〇森林づくり県民税の継続

このため、この事業の財源として、県民や企業の皆様に御負担いただいている「森林づくり県民税」の課税期間を5年間延長することとし、「静岡県もりづくり県民税条例」を一部改正しました。

◇森林づくり県民税

課税方式	県民税均等割に上乗せ（超過課税）
課税対象	県内に住所、事業所等を有する個人及び法人
税 率	個人：400円/年 法人：5%/年（1,000～40,000円）
課税期間	令和3年度～令和7年度（5年間延長）

〇県民理解の一層の促進

事業を進めていくためには「森林

づくり県民税」を御負担いただいている県民の皆様の御理解が不可欠です。タウンミーティングやアンケート調査においても、税と事業について一層の県民理解を図るべきとの御意見を頂きました。

このため、県のHPや県民だより等を活用した広報にあわせ、街頭でのPRや、事業整備地を訪問し事業効果を直接実感するツアーなどを開催するなど積極的な広報を実施してまいります。



▲街頭PR（商業施設）R2年8月



▲森の力体験ツアー（静岡市）R元年11月

〇おわりに

令和3年度以降、「森の力再生事業」は第2期計画の後期に入ります。今後も、「森林環境譲与税」による市町の取組と役割分担しつつ、事業を通じて荒廃森林の再生に取り組んでいきますので、引き続き、御理解と御協力をお願いします。

◇ 県民の皆様や市町長等から聴取した意見概要

（意見集約期間 令和2年6月～8月）

区 分			事業に対する意見		税負担に対する意見	
			評価できる	継続すべき	理解できる	（うち負担感あり）
アンケート	タウンミーティング	24会場、延444人 （回答者数408人）	94.8%	90.7%	95.6%	（4.7%）
	県民アンケート（郵送）	5,500人 （回答者数2,690人）	91.8%	95.0%	90.8%	（12.3%）
	県政インターネットモニター	609人 （回答者数565人）	85.9%	89.0%	88.3%	（24.6%）
市町長への意見聴取		35市町	82.9% ^{※1}	100.0%	否定意見なし	
経済団体への意見聴取		68団体	95.6% ^{※1}	97.1% ^{※2}	継続は理解	（3団体）

※1 否定的な意見はなし（要望、提案のみの発言）

※2 継続に反対の意見はなし

支部 だより①

林道青野八木山線について

南伊豆町 地域整備課

松崎町と南伊豆町を結んで整備が進められている林道青野八木山線について紹介いただきました。

南伊豆町と松崎町を繋ぐ新たな生活道

林道青野八木山線とは、松崎町岩科北側と南伊豆町青野を結ぶ林道です。

利用目的として「造林間伐、木材搬出等の森林整備の推進、及び森林管理」、「造林間伐等の森林整備による水土保全、国土保全等の森林の持つ公益的機能発揮」といった本来の林道の目的だけでなく、「松崎町八木山地区と南伊豆町青野地区を繋ぐ連絡道路及び災害時の緊急迂回路」としての機能も期待されています。



林道青野八木山線の概要

林道青野八木山線の起点は松崎町岩科北側（八木山）、終点は南伊豆町青野（林道鈴野線接続）となっています。幅員4.0m、全長6,812m（松崎町4,928m・南伊豆町1,884m）です。利用区域面積は815haと町としては、林道鈴野線に次ぐ大きな林道です。青野八木山線を活用した主伐・再造林等による、林業の成長、産業化を推進していきたいと考えています。

今後の維持管理について

南伊豆町側については、平成21年度に工事着手してから現在まで11年経過しています。松崎町側の拡幅工事が終了するのは令和8年度を予定しています。当初完成している部分についてはすでに10年近くの年数が経過しているため、経年劣化が見受けられます。今後の林道維持工事を南伊豆町としては、森林環境譲与税を活用して、令和8年度まで段階的に進めて行く予定です。松崎—南伊豆間が完全開通し、林業者及び一般の方に安全・安心に利用していただけるよう、尽力していきます。



支部 だより②

万瀬財産区・静岡大学 区有林活用に係る協定の締結について

磐田市 農林水産課

財産区有林の適切な管理に向け、財産区、大学、市の三者が連携して進めている共同活動について紹介いただきました。



(左より静岡大学・磐田市・財産区)

磐田市の北部に位置する万瀬財産区は、落葉広葉樹や針葉樹が生い茂る山間森林地帯ですが、近年は、区民数の減少・高齢化により、区民による区有林の適切な管理が難しくなっています。そこで、財産区は区有林を大学の研究・教育活動に活用していただきつつ、共同で整備を行うことにより、管理しやすい森林へと導くことを目的として、財産区（地元自治会）、静岡大学理学部、市の三者間で管理協定を結ぶことになりました。

万瀬財産区の状況

森林面積

114.33ha（うち協定面積27ha）

世帯数・人口

9世帯・28名(令和2年9月末現在)（年齢構成はほとんどの方が高齢者です）

協定締結までの経緯

協定締結までの経緯ですが、令和元年7月に市職員が静岡大学理学部へ訪問し、区有林の活用について説明、併せて協力への打診を行いました。大学側は、大変友好的に対応していただき、同月、大学・区民・市の三者で現地視察を実施しました。その後はとんとん拍子に話は進み、令和2年3月に大学側の同意をいただき、令和2年度には協定を締結する運びとなりました。

協定の締結

令和2年7月26日(日)に万瀬公会堂にて万瀬財産区住民、静岡大学理学部（徳岡徹准教授ほか学生数名）、磐田市長の3者を交えて協定締結式



を行いました。締結後は、作業（雑木の枝打ち）を予定していましたが、雨天のため交流会を行いました。

共同活動の内容

共同活動の内容については、コナラ等の雑木を伐採することで常緑広葉樹の成長を促し、森林の変化の様子を分析・調査していきます。常緑広葉樹林の特徴は、極相林（元々の森林の姿）であるため手入れが不要であり、針葉樹林と比較して水土保持に優れ、災害に強いことがあげられます。全体のコンセプトとしては、「経済重視」から「環境重視」への転換ということになります。

今後の予定

共同活動の今後の予定ですが、1～2年目に作業道の設置（尾根の枝払い）、実験区の策定、3年目以降にコナラの除去・シカ柵の設置、定期的な測定・生物多様性の調査を実

施していきたいと考えています。また、今後の展開としては、間伐材の有効利用（木工製品・薪・きのこの原木等）やこのプランに賛同していただける企業や学校、研究機関との連携（パートナーシップ等）を図っていきたいです。

最後に

山間山村地帯では、人口の減少及び少子高齢化により、周辺の山林管理が適切に行うことができない地域が増加しています。そのような中で、地元住民、行政に教育研究機関が加わることにより、新たな管理体制が創設できるのではないのでしょうか。また、山村地域に学生のみなさんが訪れることにより、地域の活性化にも寄与できるものと考えます。時間はかかりますが、三者で連携して、緑豊かな森林を守っていききたいと思います。

支部 だより③

「オクシズ」の森林認証について

中部農林事務所 森林整備課



静岡市の中山間地「オクシズ」の森林や木材で進められている、認証の取得や認証材の利用拡大に向けた取組について紹介いただきました。

東京オリンピック・パラリンピックにおいて、「持続可能性に配慮した木材の調達基準」に適合するものとして森林認証材の使用が実現したことが「レガシー」となり、森林認証制度が持続可能な森林経営を推進する原動力になることが期待されています。

約10万haの森林を有する中部農林事務所管内の静岡市では、「静岡市林業研究会森林認証部会」と「オクシズ森林認証協議会」の2つの団体がF M認証を取得し、約4,700haのS G E C認証林を管理しています。また、地域製材工場の水平連携組織「オクシズネット」がC o C認証を取得し、森林認証材の受注窓口の役割を果たしています。

静岡市林業研究会森林認証部会

平成17年12月に部会員6人が、約900haのS G E C森林認証を林業家グループとしては全国で初めて取得しました。当時、既に森林認証材が外国から輸入されており、将来すべての木材は森林認証が必要になると考え、全国に先駆け指針やマニュアル作りに取り組みました。取得後は、自ら明文化したマニュアルを実行しながら、グループ内部で相互にチェックし認証を更新してきました。

現在は、部会員9人、面積は約2,300haに拡大し、森林施業の実行やモニタリングにより継続的に森林

管理技術の向上と経営力強化を図っています。

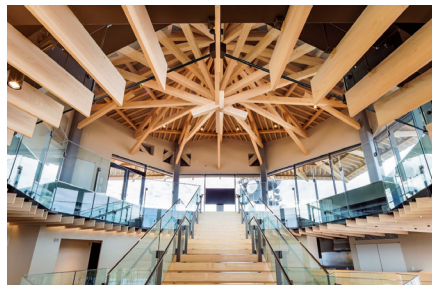
また、消費者に産地を示せるメリットを最大限生かすよう、製材工場や工務店などの関係者と連携し、認証材の利用拡大に向けた普及活動にも力を入れています。

オクシズ森林認証協議会

平成28年8月に、静岡市森林組合、清水森林組合、井川森林組合、静岡市、静岡県（中部農林事務所）が、静岡市内の森林認証の普及と取得拡大を目指し設立しました。現在、約2,400haを管理しており、今後も拡大する予定です。

令和2年1月には、ツインメッセ静岡で開催された「SDGsコレクション」に出展し来場者によるSNSの情報発信を促すなど、積極的に普及活動を行っています。

認証材の供給は、これら2つの団体で、これまでに、治山工事として日本初のS G E Cプロジェクト認証



日本平夢テラス



ビレッジプラザ提供材出発式

を取得した清水区小河内の木製堰堤や、平成30年に開館した日本平夢テラスなどに提供しました。また、静岡市が提供した東京オリンピック・パラリンピック選手村ビレッジプラザの建築資材としても使用されました。

オクシズネット

オクシズ材（＝静岡市産材）を取り扱う13社で構成されるネットワークとして、認証材を適切に管理・加工するC o C認証を平成28年に取得しました。現在、構成員は14社に増え、オクシズ材の振興を通じた林業・木材産業の発展に取り組んでいます。

山側とのつながりが強みで、認証材をはじめ多様な製品を供給することができます。また、意欲のある建設会社等と連携し、認証材の利用拡大に取り組んでいます。

終わりに

森林認証の認知度は少しずつ向上していますが、一般消費者へのさらなる情報発信など、次のステージへ進む必要があります。

東京オリンピック・パラリンピックを契機とした認証材への関心の高まりが一過性のものにならないよう、引き続き、川上から川下まで「オールオクシズ」のネットワークにより、森林認証のP Rや認証材供給力の強化に取り組んでまいります。



管理された認証林



静岡市林業研究会森林認証部会会員

農林大学校 だより

次世代に理念を引継いで閉校します

林業分校長 大石 剛

今年3月に長い歴史の幕を閉じる農林大学校林業学科の果たしてきた役割などについて紹介いただきました。

林業学科の沿革と役割

林業学科は、昭和45年に金原治山治水財団から明善会館（写真1、現林業分校）を無償で借受け発足した静岡県立林業講習所が始まりです。その後、県立林業短期大学校（昭和49年）、県立農林短期大学校林業学科（昭和55年）を経て、現在に至っています。



写真1 林業分校外観

当初の目的は、林家の担い手育成のためでしたが、現在では、幅広い専門知識・技術の習得等を目的に、優れた農林業後継者等の養成と資質向上を図る実践的教育を行っています。1年次には、本校（磐田市）にて一般的な教養科目や林業の基礎的な内容を学び、2年次には、林業分校（浜松市浜北区）にて専門的かつ実践的な内容を学ぶ（写真2～5）ことで、現場で活躍する林業者を養成してきました。



写真2 大径木伐採実習



写真3 高性能林業機械運転



写真4 測量（設計）実習



写真5 建材製品見学

卒業生の進路と農林環境専門職大学への移行

昭和45年から令和元年度までの50年間に卒業した学生の合計は、530名となりました。進路状況は、図1の通りです。全体では、林業分野（自営、森林組合及び林業会社等）に就業した学生は、概ね半数となり、最も多いのは、自営で全体の22%となっています。

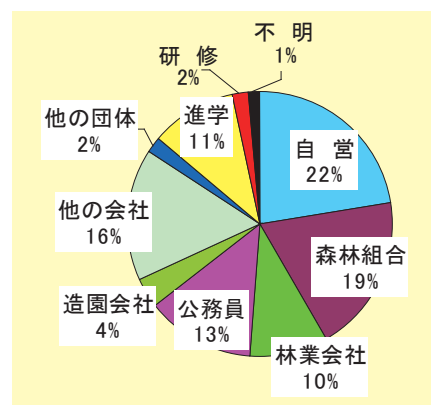


図1 卒業生の進路

自営は、講習所が始まった当初、卒業生の40%程度を占めており林家の後継者育成という役割を果たしてきましたが、直近10年間では、僅か3%となっています。その代わりに、森林組合や林業関連会社に就職しており、その数は徐々に増加傾向となっています。

農林大学校の校訓である「耕土耕心（大地を耕すことは、自らの心を耕すことである）」という理念の下、林業のスペシャリストの育成という役割を担ってきましたが、令和2年度末、2年生の卒業とともに幕を閉じます。今年度からは農林大学校の理念を引き続き尊重し、近年の経営多様化や生産技術の高度化等に対応するため、農林環境専門職大学・短期大学部へと一部移行しています。本校の運営に携わっていただいた多くの関係者の皆さまに感謝申し上げます。長い間ありがとうございました。

お問い合わせ

静岡県立農林大学校林業分校
電話 053-583-3523

本部情報

○望月英光氏が農林水産大臣賞（令和2年度全国林業経営推奨行事）を受賞



望月英光氏（望月木材代表 静岡市葵区柿島）が、公益社団法人大日本山林会主催の令和2年度全国林業経営推奨行事において、農林水産大臣賞を受賞されました。

自然環境と経済が調和する持続可能な森林経営を目標とした適切な森林管理と、地域の森林環境に配慮した丁寧な施策が評価されました。

氏は、今後も信念を持って森林施業に取り組んでいきたいと意欲を示されています。

○日本林道協会創立70周年記念林道功績者表彰

日本林道協会創立70周年記念行事として、林道事業の推進に功績のあった方々の表彰が行われ、本県では、紅林澄氏が林野庁長官賞を、河邊昭男氏、松浦哲二氏、菊地昌久氏が日本林道協会会長賞を受賞されました。

表彰式は、11月18日に行われました。



○治山・林道コンクールで林野庁長官賞を受賞

一般社団法人日本治山治水協会・日本林道協会主催の令和2年度治山・林道コンクールにおいて、(株)渡辺兄弟工業様と三村建設(株)様が林野庁長官賞を受賞されました。



(左) 渡辺兄弟工業 谷田部氏 (右) 三村建設(株) 三村氏

兄弟工業様と三村建設(株)様が林野庁長官賞を受賞されました。

表彰式は、11月19日に行われました。

部 門	工事名	受賞者
第36回 民有林治山工事 コンクール	治山（復旧）仇山工事	(株)渡辺兄弟工業
第36回 民有林林道工事 コンクール	森林環境保全整備京柱線3工区工事	三村建設(株)



治山工事部門 林野庁長官賞受賞者



林道工事部門 林野庁長官賞受賞者

○林業就業相談会について（開催のお知らせ）

「第3回しずおか森林の仕事ガイダンス」をクリエート浜松で開催します。

新規採用を予定している事業体などがブースを設け、仕事の内容や採用条件などの相談に応じます。また、リモートによる相談も受け付けます。

林業に興味のある方や就業をお考えの方は、ぜひ御参加ください。

日時：令和3年2月6日(土) 10時～15時30分

場所：クリエート浜松2Fホール

（浜松市中区早馬町）

その他：予約不要・入場無料

詳細は当協会HPをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止する場合があります。



第2回の様子